

発行/昭和63年 8月15日 No. 6
えひめ地域づくり研究会議
(財)愛媛県まちづくり総合センター

特 商店街 集

新しい地域文化の発信/今 治 商 店 街
パークアベニュー構想/伊 予 三 島
参加して楽しむイベント/袋 町 商 店 街
商空間 Sステージ/砥 部 町
商店街と町並み保存/内 子 町
住める商店街をめざして/広島・並木通り

REPORT

「ひと」が主役のまちづくり
— 第 6 回逆手塾に参加して —

GENKI印

ひょっこり ひょうたん ユニコーン
夢企画 トッポ21

MESSAGE

Let's パソコン通信

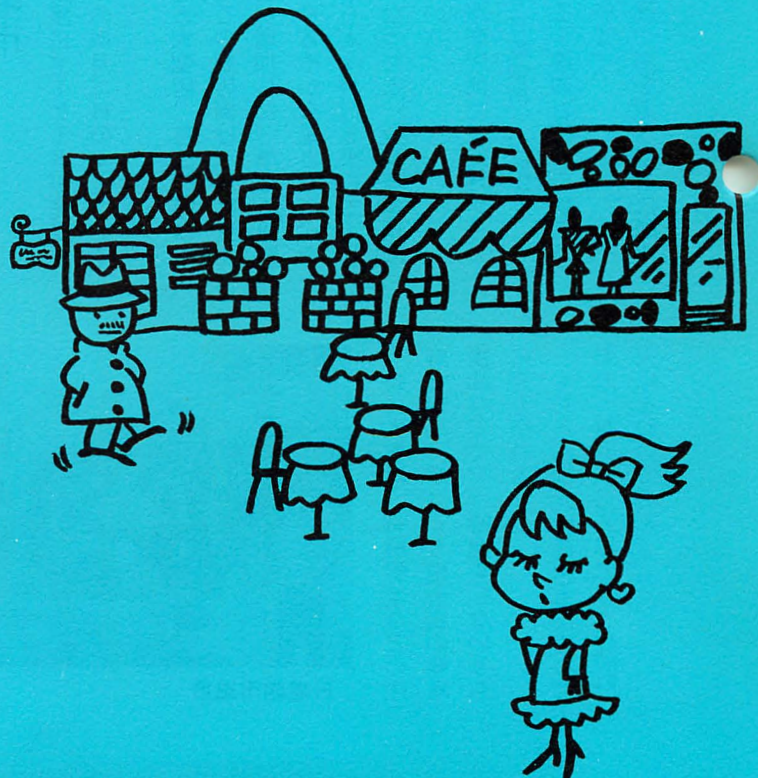
研究会議 News Letter

イベント雑感—城辺町での試み—
「“道”と“みち”を考えるパートII」報告
提 詩

まちづくりネットワーキングえひめ

舞 とうん

VOL 6



今治商店街

新しい地域文化の発信

山本 均 (愛媛県今治地方局)

「文化とふれあえる場づくり、ロマンのある楽しめる町づくりは商店街の使命である。」今治商店街協同組合の金森仙介理事長は、このように言われる。

無店舗時代、カタログ販売の時代が来るといふ見方もあるが、楽しみながら買いたいものをするという商店街の役割は、決してなくなることはなく、むしろますます市民生活の中で重要になっているのではなからうか。

▼四国のマンチエス ター今治

今治は、港から開かれてきたまちである。明治時代から、京阪神との綿業の取り引きが始まり、織物、タオルと産業が発展してきた

が、港の重要性は今も変わらない。海に開かれた町として、進取の気性に富み、研究開発にも熱心な土地柄と言われている。

そして、工業との両輪で、商業も発展し、戦前は松山市をしのぐ勢いがあつたという。

戦災の復興が速やかに行われ、順調に伸びてきた商店街も、オイルショック以降は、大型店の位置関係もあって人の流れが変わり、地盤沈下が続いてきた。

しかし、今、商店街に活気が甦えつつある。それは、再生というより新しい商店街の主張というべきものではなからうか。

新しい地域文化の時代に、商店街全体がその担い手となるという気概が感じられるのである。

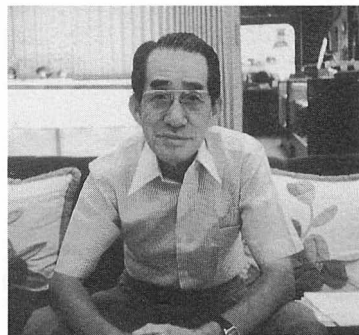
▼何かがある・ 日曜市

今治銀座にアーケードが完成した。今年の四月二日のオープンである。

今治港と大型店、官公庁等の間にあるこの商店街は、目に見えて通行量が増加した。単なる通路でなく、ゆるやかな足どり、楽しみながら人々が行き来してくれるようになったと、金森理事長は評価している。

その銀座商店街で、五月から、「いまばり日曜朝市」が始まった。毎月の第三・第四日曜日の朝八時から十二時まで。

店の数は、回を追うごとに増え



金森理事長

現在は、一二〇店を超える。回を重ねるにつれて、常連客と店との心のつながりが深まるのであろう。同じ店に毎回立ち寄ってくれる人もあり、なじみ客となる人の数が着実に伸びているということである。



日曜朝市風景

特に人気は、有機野菜などの生鮮食料品、手づくり田舎風の味噌醤油などで、一時間もしないうちに売り切れる。

もちろん地元のお店も出店しており、毎回一万人以上の人が訪れ、大にぎわいである。

た。
市役所、商工会議所、大型店が協力して朝市のために約一六〇台分の無料駐車スペースを確保したのである。こんなところにも、市全体が、日曜朝市と、商店街活性化

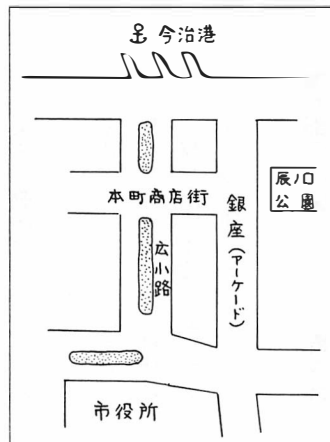
商店街協同組合の熊野善義専務理事は、地元商店街としての新しい企画を、これから打ち出していきたいと意欲を見せる。

日曜市に斬新なものを導入したい。それに、ちょっとした配慮、お客に対する優しさがあれば、もっと品物も売れ、楽しんでももらえる。商店街全体でアイデアを出したい、と言われる。

ところで最近、いい話題があった。



オープニング
(マーメイド・プリンセス)



化にかける意欲が感じられる。

そして、これからの課題は、銀座街・本町商店街・広小路と、人々が回遊してくれるようなまちづくり、商店街づくりである。現在周辺の商店街でも、カラー舗装、アーケード改修、植栽など、町並み整備が検討され、具体化しつつある事業もあり、これからが楽しみな街になってきた。

▼うるおいと文化を 求めて

冒頭にも書いたが、文化性というおのいのあるまちづくりは、商店街の使命である、お二人とも強調された。

いい文化の育つまちにこそ、いい産業が育ち、人も育つものと思

う。今治は工業都市のイメージも強いが、商業も工業も文化も、一体にして考えなくてはいけないのが現代ではなからうか。
回遊型の商店街づくりの核の一つとして今、商店街横の、辰ノ口公園内に、辰ノ口門と橋の古式復興を図ろうという話が持ち上がっている。



辰ノ口公園

今治の歴史をふりかえり、歴史の遺跡と文化の再興を、活動の一つとして取り上げると、趣意書にはうたわれている。

先日、市役所の行事で、都市問題経営研究所長の、藤田邦昭氏が

ガス灯



アーケード入口

来県された。
「魅力ある商店街づくり」と題する講演であったが、その中では、都市に於て商店街の果たすべき役割について様々の提案があり、特に、今治市のイメージづくりの必要性を強調されていた。

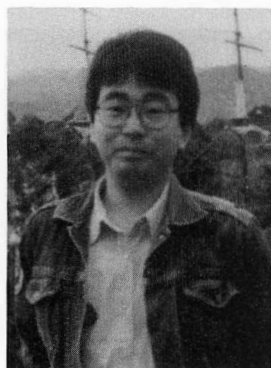
この講演会の話題になった時、金森理事長が、「先生の話は、そのとおりだ。しかし、今治の各商店街は、すでに十年後の架橋時代を目指してその取り組みに入っている。」と自信を持って語られたのが、印象に残った。

伊予三島

新しい商店街をめざして

―パークアベニュー構想―

宮崎 修 (伊予三島市役所)



宮崎 修さん

休日の地方都市の街角から若者達が姿を消して久しい。今日の標準的な若者が休日を迎えて思うことは、「さあ今日は町を出てどこへ遊びに行こうか。」なのである。そんな彼らの行先はというと、その大多数は松山、新居浜或いは高松といった所の商店街なのである。そこで彼らがとる行動は、これがまた意外と平凡で、映画を観たり服を買ったり、食事をしたりというパターンが最も多く見受けられ

るのである。この程度のことならば、彼らが住んでいる地元の商店街でも間に合うのだが、何故だか彼らは地元へは足を向けようとしていない。こうした若者達の持つ高い購買力が他の都市に流出しているという事実が、地元商店街低迷の一因となっていることは疑いのない所であろう。そこで私なりにその原因を考えてみようと思ったのが、「パーク・アベニュープロジェクト」誕生の動機だった。それから二年、十一人のメンバーで研究を進める内に、一つの結論らしきものが見えてきた。それは商店街の魅力を醸し出す重要な要素が店舗（業種）の配列であるということだ。

地方都市に從來からある既存商

店街は、その成り立ちが自然発生的なものであるが故に、その業種の配列も各店主の選択に任されており、その並び方に系統だった必然性が見られることは希である。例えば、化粧品店の隣に鮮魚店があったりするような光景もあながち珍しくなく、購買意欲の高揚に歯止めをかけているのが現状である。

では、購買意欲の高揚につながるような業種の配列にはどんなものがあるだろうか。例えば女性のショッピングにおける美容院と化粧品店、ブティック及びアクセサリ・ショッップという四種類の業種の相関関係について述べてみたい。「季節も変わったので、髪型を思い切って変えてみたら、それに似合った洋服が欲しくなった。洋

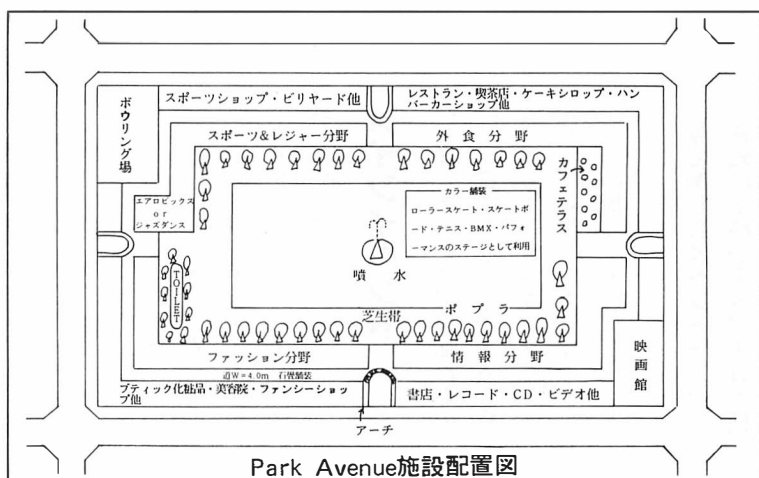


服を買ったら、その色に合わせたルージュやマニキュアが欲しくなった。ルージュをつけたら、その色に合うイヤリングが欲しくなった」というのはどうだろうか？この場合、この四種類間には、明らかに回遊性と購買意欲の高揚が見られると思う。しかしながら、こういう風に関連性ある業種ばかりが軒を連ねている光景は、前述した自然発生的な既存商店街には望めない。この業種の配列の成熟度という観点から見ると、既存商店街はショッピング・タウンというよりもむしろショッप्ス（商店群）とでも形容する方が適当な気さえしてくる。

それならば若者達が訪れるという松山・新居浜・高松の商店街は充分その辺りが整理できているかという点、これもまたそうでもない。結構色々な業種が混在している。ではもっと都会に行けばどうだろうか？岡山・大阪、これでもやはり充分じゃない。

業種がきちんと整理された商店街、そんなものがあるとした

ら、それは唯一東京だろうと思う。
神田の本屋街、秋葉原の電気街、
新宿の映画、カメラ街、上野のア
メ横（雑貨）、バイク街、原宿の
竹下通り（衣類）、吉祥寺の喫茶
店等がそれに該当すると思う。
今挙げた街は、商店街活性化の
常套手段のように言われる区画整
理事業等によって生まれたもので



Park Avenue施設配置図

はないと思う。その商店街を構成する各店舗の経営戦略が一致した結果として存在するのである。現在の所、これほどまでに関連業種がよい意味での競争及び協同関係を保てるのは、千葉・埼玉・神奈川にまで及ぶ巨大なマーケットを持つ東京だけに許される経営戦略かも知れない。

では、地方都市において理想的な業種配列による経営形態は到底無理であるかというところでもないと思う。その可能性を示す一番端的な例として挙げたいのが、地元商店街不振の原因として矢面に立たされることの多いスーパーマーケットやデパートである。スーパーマーケットやデパートの持つ秀れた長所として挙げたいのが、その「買い易さ」である。それは、地下の食料品売場から始まり、上の階に行くに従って、アクセサリー・化粧品・婦人服・紳士服・文房具・玩具・家具・電気製品、レストラン・屋上遊園地へと続く整理された商品配列による賜物である。例えば、若い女性がブラウスを

一枚買いに出かけたでしょう。スーパーマーケットやデパートならば、二階婦人服売場で探せばよく、また、品揃えも豊富なので、労せず目的を達する事が出来よう。では、商店街で探すとなればどうであらうか？市内各所に点在するブティックを一軒一軒回ってみては、今迄に見てきたブラウスと、どっちがいいか比べながらの買物となり、一番気に入った品物を見つけるまでは大変な労力と時間を費することとなる。その店から店への移動過程が楽しければ、これもまた「ショッピングの楽しみ」と割り切りも出来ようが、ブラウスを探している時に、途中で八百屋や病院の前を通っても何の意味もないのである。

それならば、ブティックはブティック同志で集まればそれなりの華やきも出てこようし、鮮魚店や八百屋等が軒をつらねれば「町の台所」的な活気を呼びおこすかも知れない。ここまでやって初めてスーパーマーケットやデパートに充分以上に對抗出来るというも

のだ。

こうして業種を適正配列することにより、商店街に新しい人の流れを作り出したいのである。例えばブティック通りには若者達が溢れ、「町の台所」通りの方は主婦で賑うといった状況である。実は、これがパークアベニューの狙いなのである。商店街を訪れる買物客の年代層を意図的に分けて、「世代別商店街」として開発する。その中に「若者の街」を作り、思い切り若者向きの演出を行うことにより、商店街から離れて行った若者達のハートを取り戻せるのではないだろうか？



宇和島・袋町

参加して楽しむイベント

田部 司 (日曜日実行委員長)

宇和島商店街の振興とお客様へのサービス向上、大型店対策を主な目的として、毎月第一日曜日に『日曜日』を実施しております。

具体的にどのように実施しているのかと申しますと、まず日曜日そのもののイベントをメインイベントとサブイベントの二本立てで実施しています。

『メインイベント』とは、

お客様、あるいは将来私たちの町内にて買物をされるであろう見込客に対して行う『見て楽しむイベント』、『聞いて楽しむイベント』、『参加して楽しむイベント』の三つがあります。

『見て楽しむイベント』—たとえば映画の上映があり、それも極



田部 司さん

力話題性のある映画で、ニュース性、またオリジナリティーのある方法・場所を実施することである。

一昨年は商店街のドーム型アーケードそのものを利用した、題して『袋町アーケードシアター』や、昨年は厳しくなった道路交通法による規制にともない、商店街の近くにあるバスセンターを使用した苦肉の策の『バスターミナルシアター』等があります。アーケードシアターは当時としては全国でも初めての試みではないかと思うの

ですが、ドーム型のアーケードと、商店街自体道路がゆるい下り坂になっているのを利用して見物席にし、話題作『小猫物語』他三本を上映致しました。その他、昔の宇和島の町並みや、風俗、人物などの写真展『ウワジマのすたるじあ写真館』、アーケードの下で行う『美術展』、『陶芸展』等です。

『聞いて楽しむイベント』—バンドの生演奏やディスクジョッキーまた話題性のある人の講演等。昨年二月には池田高校野球部高文也監督の講演を実施し、教育論、子育て論としても大好評を博しました。また宇和島の高校野球関係者にも大きな刺激を与えました。

『参加して楽しむイベント』—毎年恒例の六月の「ホテル観賞ツアー」、八月の「サンセットクルーズ・イン・宇和海」と銘打つての連絡船貸切による、納涼と花火打ち上げ、船上におけるビール、ジュース、おつまみ、その他食べ放題による大パーティーなどがあります。「サンセットクルーズ・イン・宇和海」は宇和島のスバラシイ夜

景と宇和海の夕日を海から見て頂こうと企画したものです。

また、『サブイベント』

としては、これについてはミニイベントと言い換えてもよいかと思いますが、われわれ商店街で買物をされたお客様あるいはアーケードを通行中の人々に対してのサービスがあります。たとえば、アーケード内に作った特設会場にて、コーヒー、ジュース、お茶等、季節に合った飲食物を出し、くつろぎ、休憩して頂けるための場所などの提供です。

ただ、ここで注意しておかなければならない大切な事があります。それは、われわれが実施してきたイベントの中で、絶対に守らなければならない条件がある、ということ。その第一は、お年寄りから子供たちまで誰でも年齢別にかかわりなくイベントに参加できるという事です。第二は、商店街内か、もしくは、なるべくその近くでイベントを行わなくてはいけないということです。第三と



しては、商店街を離れてのイベントは、お客様を他へ移動することになり、当然各お店の販促につながらないわけですから、お店の営業時間にさほど影響のない夜間しか実施できないということです。

以上のごとく、イベントの構成はなるべく広範囲の客層と、また買物客以外の人でも気軽に参加して頂けるように心がけております。ですから、われわれは商店街の外で行うビックイベントについては、原則として日曜日実施日の日曜日にそのイベントの紹介やPR、また参加して頂くための抽選会等を行い、学校や翌日の仕事等に影響の少ない土曜日の夜に実施しております。

また、そのイベントにより多く



の参加者が望めるのは、経験上から申しまして、土曜日の夜が最も良いという結果が出ています。

◆◆……………◆

今年度も、五月には当市出身の高島華宵が生誕百年になるのを記念して、南予文化会館において、「抒情画名作展」を開催致しました。わが国グラフィック・デザインの草分け的存在として、また、竹久夢二とともに華麗な「抒情画」の世界で一世を風びした華宵をもつ

▼現地での物産市



と多くの地元の人たちに知ってもらい、古き良き時代をなつかしんで頂こうと数年前からこの企画を温めていたもので、「宇和島さんさ祭り」の協賛を得て、『高島華宵・抒情画名作展』として開催にこぎつけました。展示作品は、複製、原画も含めて一五〇点以上で、諸般の事情により原画は少なかつたのですが、複製を含めてもこれだけ多くの作品が展示されるのは十五年振りで、会場は二千名を優に越える人出でにぎわいました。その中でも特に十代から二〇代までの入場者が三〇%を占め、予想以上に若い人たちに観迎され、当初の意図は十分に伝わったと思います。

●●……………●

また、夏の一夜、今では市内においてあまり見られなくなったホテルの幻想的な乱舞を楽しんでもらおうと企画した「ホテル観賞の夕べ」も今年第三回目となり、六月十一日(土)に実施致しました。それまで過去二回の松丸から、さらに奥地になる目黒溪谷に会場を移しましたが、これは目黒の方がホテルのスケールがより大きいことから選びました。

JR予土線でのんびり約一時間列車に揺られ、さらに二〇分あまり貸切バスに乗り換えての『ホテル観賞ツアー』です。

初回は珍らしさも加わって一八〇名、二回目の前回が一五〇名、今回はPR効果も大きく二〇〇名からの参加者でした。

ホテル観賞ツアー

今回は参加者には飲み物、ウナギ弁当、ホテルのおみやげ付きで現地では物産布、映画会、ジャンボ抽選会なども実施致しました。このような屋外イベントは年々好評で、回を重ねるたびに参加希望者も増える傾向にあります。

砥部町

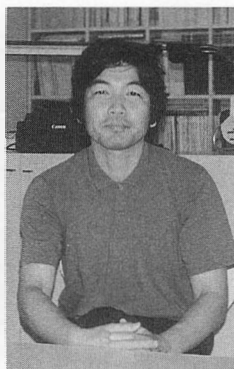
商空間・Sステージ

武智和臣（アトリエA&A）

▼私の考える商空間

最近完成した、S・STAGEは、企画当初から、テナントビルとしての性格、町並に対しての影響、地域住民に対する貢献度、全てが未知数の状態で始まった。

砥部町の個性とは何か、新庁舎郵便局に隣接した場所で、商業建築を町並に機能させる方法とはか、地元住民本位の建物として展開するのか、地元商工会と摩擦を起こさない様なテナントの誘致とか、一個人の建築家の仕事の領域を越えた部分までも踏み込まざるをえなくなり、環境とのかかわりを配慮した建築であることを、認識していった。計画に当たっては、まず商業主義一点ばりの、長屋建の



武智 和臣さん

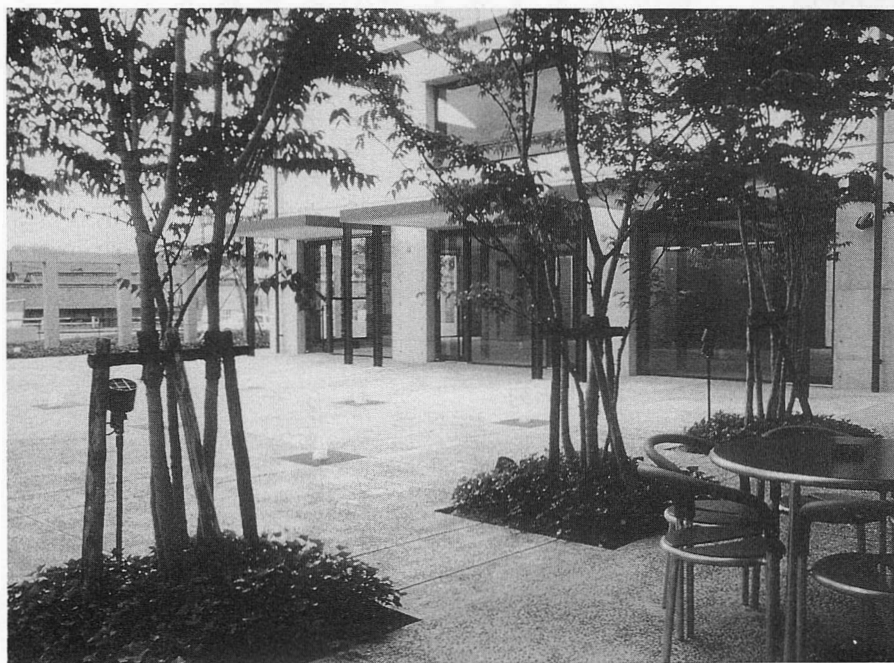
パターンは避け、同じ商業空間でも人と人が集い、テナント側も、そこに訪ずれる人も共有できる空間、何かに共感を持った人達が自然発生的に造り出していく空間の提供、それはまさしく、生活シーンの一部を演じる場「ステージ」の製作であった。

中央の広場をとり囲む一つ一つの建物は、適度な距離を保ちながら配置することによって界限性をもたらし、群としての建築のおもしろさをねらった。

また広場には、水・光・音・緑をテーマに、環境装置がしかけてあり、一見無機質な空間にうるおいを提供している。この広場は、定期的にイベントが行われるべく

構成しており、様々な文化面での情報発信地としての役割も果たして欲しいと願っている。

竣工してから、四カ月経った現在、地域に対して、この建物の



存在がどう機能しているのか、個々のテナント次第かもしれないが、まだ結論を出すには早すぎる様である。

▼まち

まち並の形成過程は、経済的、風土的・地理的・宗教的要因を背景に様々な形態をとりながら発展して来た。そのまち並は、適度な行動範囲という距離間を保ちながらコミュニティを形成し、生活上の秩序や、経済的秩序もその中で、自然発生的に成長していった。まちに住まう人々は、そのまち並全体を人生のステージとし、そこでの営みを演じて来たはずである。交通体系の変化に伴い、時間的距離感はずかしく短縮され、様々な地域の交流がなされる様になった。しかし、身近な範囲でのコミュニケーションが、促進されて来たかどうか疑問である。

伝統的な慣習や、井戸端会議の様な身近なコミュニケーションさえも失なわれつつある生活空間は、どこへ行ったのか。まち並は、



虚構の構築物に彩られた空間であってはならない。

▼まちづくり

まちづくりの重点は、これまでの経済的効率を追求して来た時代から、人間性を重視した時代へと移行しているといっても過言ではない。

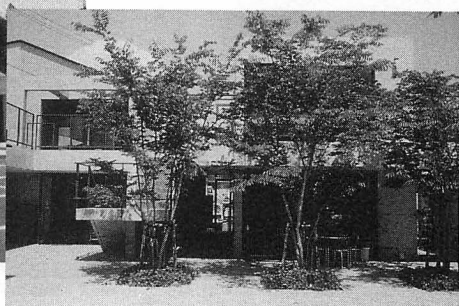
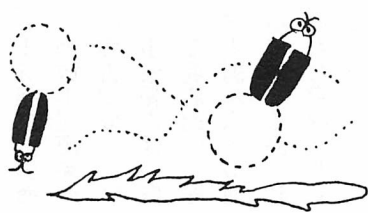
一般住民は、専門的知識を持ち合わせないから、発言できる範囲は必然的に限定される。しかし住民の視点からとらえた地域に対する、身近な意見、感覚、発想は、

見捨てることができない。

イタリアのボローニャ（人口三〇四万人）の町では、市民選出の地区評議委員が個々に計画される建物のチェックを行っている。歴史的建物の保存計画や、町の景観に対して権限を持っているのである。

まちづくりを考える時、こういったこれからの住民参加の方法も、とりいれて見てはどうだろうか。

一方、住民ひとりひとり（建築家も含む）が、街路やまち並との共存を考え自分達の町であるという自覚を持たなければならぬと同時に、次世代の子供達にも、まちづくりの大切さを認識させなければならぬ。

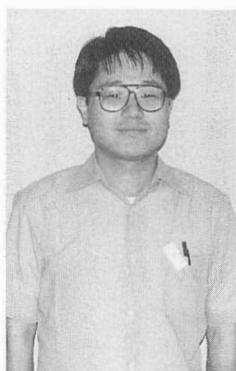


内子町

商店街と町並み保存

安川

徹（内子町役場）



安川 徹さん

「昼間この通りのどちらに向かって鉄砲を打っても誰にも当たらないよ。」と、この内子町の本町通り商店街の中段に位置するある商店の主人は怖い冗談を言う。かつては木蠟や和紙の地場産業に支えられ、かつ内山地域の交通運搬の要衝として明治・大正・昭和と経済活動を活発に行ってきた内子の商店街も、戦後産業の衰退やそれに伴う過疎の進行によりその基盤を弱めながら今日に至っている。

この商店の主人の言葉からも分

かるようにその悩みは深く、実際の平日の昼間は開店休業状態の商店も少なくはない。

この様な悩みを抱えた古い商店街をどの様に再生していくべきかということ、内子町の八日市・護国地区における町並みの例に倣い商業地区の町並み保存に取組み独特な商業空間を創造していくという問題が取り沙汰されてきた。

しかし、商店街におけるこの取り組みも行政側と住民側の様々な思いが錯綜し、多くの課題について十分な議論が尽くされないまま宙に浮いた様な形になっている。この商店街における町並み保存の問題の今日までの経緯と現況について報告したい。

まず商店街における町並み保存

の問題は、昭和五十一年に内山商工会で実施した「地域小売商業近代化対策事業」の報告で取り上げられている。この事業報告は「白壁とノレンでつくる商店街」と題され、この中で商店街（六日市地区）の歴史的環境に対する高い評価に触れ、この優れた資源を有効に活用し観光振興ということも含めて「内子に残された古くて新しい文化との出逢い」という視点から商店街における町並み保存という大胆な提案がなされている。この報告書の出された背景として同年にフジ、いずみ（現：ジョッパーズプラザ）という二つの大型店が商店街を挟む形で出店され、この時の商店街の危機感は大きなピークを迎えたこともこの問題に対する重要な要因であった。

さらにその後行政においては、昭和五十七年に内子町振興計画を策定し、この中の三大重点事業で町並み保存を核としたまちづくりの方向を示し、また昭和五十八年に観光振興計画を策定し、これにおいても町並み保存による商店街

再生を提案している。また同年内山商工会においては、「小売商業振興モデル商工会事業」を導入し、「白壁とのれんでつくる商店街づくりのために」という商業者と消費者に同じ内容のアンケートを実施し両者の意識のズレに着目することから課題と方向を浮き彫りにして、①商店街をもっと知ること。②組織的な問題解決③商店街の将来の姿を描くこと④商店街を内子の文化センターに等の提案がなされている。昭和六〇年には愛媛県



六日市の商店街

文化の里整備事業により保存事業が行われてきた内子座が落成し八日市・護国の町並み保存地区とこの内子座を繋ぐ六日市の商店街の通りには観光客が歩き始め、これまでの間に商店街では町並み保存に協力あるいはそれを意識したと思われる新築や改装を行った店も一部には現れてきた。

こうして内子町の六日市商店街における町並み保存についての意識はその進行の状況は別にしてもある程度の合意を得る状態を作りつつあったのであるが、昭和六十年においてそうした方向に大きな変化がおこる。変化というよりこれまでの商業地区における町並み保存において問題となってきた「町並み保存は商業の種類によつ



上芳我郎

ては似合わない」「商業活動において不便になる」等の不満が、行政側の六日市商店街における町並み保存事業を具体化しようという提案により一気に噴き出してきたと考えられ、これは町の保存行政に対し反発する動きとなり署名活動にまで至った。行政側は八日市・護国地区におけるような重伝建地区の指定や六日市地区における交通規制を持ち出し商店街における町並み保存に対する合意を十分なものとしていたのかもしれないが、当の商店街にしてみればそれはまだデリケートな問題であり、商業空間における保存という特殊性についての配慮が十分にあったかという点等反省材料を多く残した。

この六日市商店街の保存行政に反発する動きは折りしも、内子町で西ドイツのローデンブルクの市長を迎え町並み保存を中心のテーマとした内子シンポジウム八月六日を開催する直前の出来事であった。

このときを境に六日市地区における保存の問題については議論が少し冷えた状態が続いているが、

またこの頃から六日市の商店街においては俄に建築ラッシュという状態が起こっている。金利の情勢とか建て替え時期になっているものが多いとか要因は様々であろうが、その殆どは町並みを意識したものではなく鉄筋あるいは鉄骨を構造とした三階建ての現代的なものである。現在も二、三の商店が新築中であるがいずれも同様なものになる予定である。町の保存行政に対する商店街の回答なのだろうか、いずれにしてもこうした建築が進むことにより町の顔であ



内子の町並み

る商店街は皆様わりすることは間違いない。

一方行政においてはこの商店街の中に古い商家を修理復元した歴史民族資料館を近いうちに開設し、六日市商店街の目玉とし活用していく予定である。また伊予銀行内子支店も現在新築中であり、これはこれまでの同支店の明治期の擬洋風の建築のデザインを踏襲したものが予定されている。

こうして町並み保存側と保存に對抗する側が同じ商業空間の中で、お互いに無視をする恰好で建築投資がすすめられているという現況になっている。

今年六日市・八日市護国地区の町並みの調査報告書が出され、これの「町並み保存と町づくりの方向」の中で商業者の自主的な運動としての商店街の町並み保存が提案されている。まちづくり、また商店街の再生という視点から全国どこにも見られないこの商店街における町並み保存という取組みが再び議論されることに期待したい。

広島県・並木通り

住める商店街を目指して

取材／近藤

● 並木通りとは

今、広島で若者が一番集まるショッピング街といえば並木通りである。昔からある本通りや銀座通りを押し退けて、どういう経過の中からそういった商店街ができたのであろうか。

そういう興味を持ちながら並木通りを訪れたのは、去る六月十三日のことであった。

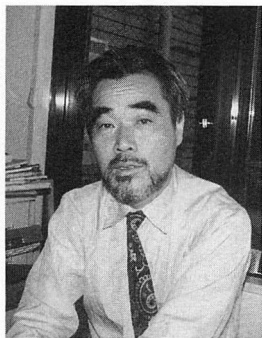
現在の並木通りは、昨年の十二月五日にファッション・タウンとして生まれ変わった通りである。

昭和五十九年、国のキャブシテム（ケーブル共同溝）のモデル地区となり、電柱を地下埋設することになったが、どうせ道路を掘り返すのならということで、それを機会に路上をきれいにしようと

考えた。

そこで、四・五メートルだった両側の歩道を六メートルに広げ、歩くということに安心感を持たせた。また、六〇本あったサワグルミを四〇本に減らし、かわりに、通りのいたるところにおもしろミニメントを置いた。

それには、まがりくねったベンチ、サーキュレーションを表現した抽象彫刻、友好姉妹都市の現地時間がわかる時計塔、歩道やベンチにはめ込まれたレリーフなど



加藤 新さん

がある。

また、単におもしろいというだけではなく、手押しポンプを配したミニメントや電話BOX、フットライト、時計塔のダークブルーは、この通りが運河であったことの歴史的背景を表している。

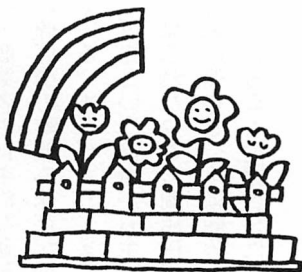
このように、感性と芸術をばぐくむ商店街として並木通りは昨年生まれ変わったわけだが、そこにいたるまでの話を、現在SINプラニングオフィスを経営している加藤新さんから聞き出した。

● 加藤さんと並木通り

加藤さんと並木通りの出会いは、昭和四十六年である。この年、並木通りの四つ角に「GOBAN KAN」というデザイナーブランドをあつかう店を出したのである。

加藤さんでもできれば表通りに店を出したかったのだが、資金的な都合もあり我慢しなければならなかった。

しかし、大きな商店街に接し、公園も周囲にあることから立地条件は恵まれていると考えていたが、現実には、本通りに一〇〇人の人



出があるなら並木通りには三人ぐらいはいい状態であった。

そして、その頃には並木通りという名前すらなかった。

昭和五十一年、客の流れがなければ「もの」は売れないと考えた加藤さんは、周辺環境を変えていく以外にないと思い、一〇人ほどを集めて会議を開いた。

全長三四メートルのこの通りは、四つの町からなっており、それまで通り全体で話し合うことは一度もなかったのである。

そして、その話し合いの中から、「本通りの裏ということでは魅力がない。通りに六〇本のサワグルミの並木があるのだから、並木通りという名前を付けよう」こうして並木通りとして、第一步を踏み出したのである。

ただ、通りに名前を付けたからといって、客が増えるわけでもなく、通りが良くなるものでもない。中心部にしては、周辺環境も含め道路自体が良くなかった。そこで、道路を良くしてもらおうと市役所に行ったが、相手にしてもらえなかった。

「こうなったら、自分たちでやるしかないという思いが、強くなりました。」と加藤さんは当時を振り返ってこう言った。ここから、加藤さんの並木通りへの挑戦が始まるのである。

●並木通りへの挑戦

まず加藤さんは、通りという線に対し、点である店舗づくりから始めるのである。

加藤さんの店のある四つ角に、ヤング市場を狙った広島にはない店をということで、イタリア料理店の「ピアチェ」など五つの店ができた。これが五十二年の秋である。

こうした中、自分の店を良くしようと思ったら、隣の店を良くすることが大切であり、自分の店

も隣の店も良くなるためには、通り全体が良くなしないと難しいということが町の雰囲気としてわかってきたのである。

そうするうちに、市役所が「道路をきれいにしませんか」とやってきたのである。

そのためには、意識を高めることが大事であり、振興組合を結成しようと働きかけた。そして、昭和五十四年一〇月に、新川場商店街振興組合を発足。加藤さんは、理事長に就任し組合員に対して助言していくのである。

加藤さんは、助言の中で業種・業態の変更を進めると共に、「住める商店街」を目指し住空間の整備を行った。

加藤さんが店づくりを行う場合「もともと特徴のない町なんだから、これからみんなで特徴をつくっていかう。それには、何かに絞った売り方をしてはどうか」と、「二店一商品」と表現し広めていった。現在、並木通りには、コーヒーしか出さない、ジュースしか出さない喫茶店などがある。

また、「住める商店街」を目指

す加藤さんは、生活の場としての位置付けを商店街に持たせ、特徴の一つにしようとした。

だから、商店街には余り似つかわしいとは思えない銀行や医者にも生活には必要だからという理由で残ってもらった。ただ、銀行の前面を店舗にしたり、医者については、一階を店舗にし、二階を診療所、三・四階を住居とすることで協力してもらった。

また、通りの人口にあったキャバレーについては、二年間かけて出ていってもらった。これも、住める商店街にするためには欠かせない措置であった。

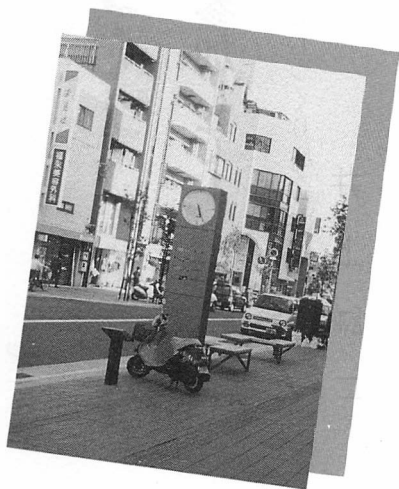
●並木通りを振り返ると

加藤さんは言う。「自費を投入して頑張ってきたが、得るものも

多かったと思う。失うものは、物であるが、得るものは精神であり、人のつながりであったのだから。」並木通りの仕上がりの状態は、五〇%ぐらいだと加藤さんは言う。そこには加藤さんの信念があるのだ。「最初から一〇〇%を作るといけない。八合目ぐらいを目指して、五合目ぐらいにいるのが調度良い。そうして、一〇〇%を目指そうとする精神を持ち続けることが大切なのだ。」

結局、目指すもの、つまり目的や方向性をしっかり持つことが大切なのであり、そのためには、自分の感性を大切にしなければならぬ。なぜなら、自分の感性というのは、その人だけのオリジナルなものなのだから。

加藤さんに会い並木通りを見て、街自体が新たな創造に向けて動きだしたような気がした。それは、加藤さんという個人の殻を破り、そこに集う人々の個性によりクリエイティブさせていく空間のように思えたからだ。ただし、基礎になる五〇%は、加藤さんそのものであることも忘れてはならないが、



「ひと」が主役のまちづくり

― 第六回逆手塾に参加して ―

(財)愛媛県まちづくり総合センター

井 上 謙 二



◆ 逆手塾 ◆

水田に早苗が映える。中国山地のふところに抱かれた人口二、〇〇〇人余の町、広島県甲奴郡総領町に、今年も「人儲け・知恵儲け」をたくらむ人々が東京以西の各地から集い、第六回逆手塾が開かれた。愛媛からも私達を含めて一七名と、地元の広島に次ぐ参加者があった。

私が逆手塾に興味を覚えたのは、『まちが輝く』という本で塾の主催者である『過疎を逆手にとる会』の存在を知ってからである。そこには、逆境に負けず、いや、それさえも逆に利用して、生き生きと輝きながら、したたかに生きている人々がいた。東京のものまねではなく、「ここだけ」の地域づくり

をめざす逆転のドラマの数々、その発想がとても新鮮だった。

逆手塾は、一九八三年に「過疎の時代を拓く」というテーマのもとにいわゆる行政主導的に始まったものであるが、第三回から『逆手に取る会』の主催となり、「女が主役のまちづくり」「ふるさと産業おこし」「行政主導でなぜ悪い」とまちづくりについての討議を重ねてきたが、その中を一貫して流れているのは「経済面の満足だけでは人は残らない」ということであり、その地域で自信を持って生きていくこと、そのために人を知り学ぶことのすばらしさ、つまり「生きがい」と「人と人の心のふれあい」こそ大切だということである。逆手塾のサブタイトルは『東京でできないシンポジウム』

そして今回のテーマが『ただ生きているなら文化はいらない』。この言葉にどんな意味があるのだろうか。

◆ 吉田村 ◆

私が参加した第一分科会は「村中を博物館にする」という島根県吉田村の藤原 洋企画振興課長をゲストに開かれた。

吉田村は古くより砂鉄を原料とする日本古来の製鉄法である『たたら製鉄』で栄えた村である。『出雲鋼』として知られた『玉鋼』の中でも、吉田村で生産された品は特に優れたものとして、江戸時代には全国的に搬出された。しかし、ヨーロッパの近代製鉄法が用いられるようになって『たたら製鉄』は姿を消し、その後の基幹産

業となった木炭も、昭和三〇年代の燃料革命によりやがて衰退した。それにつれて、昭和三〇年に五、〇〇〇人あった人口も昭和六〇年には約二、八〇〇人となった。

このような過疎の状況の中から、吉田村の『鉄の歴史村』づくりはどのような理念のもとで、どのように実践されつつあるのだろうか。過疎のとらえ方について、藤原さんは次のように言われている。

過疎の原因には所得が得られないという経済的な面と情報や生き方の選択が得られにくいという文化的な面とが考えられる。そこで課題として、「所得対策と雇用の場の確保」と「地域文化の確立」があげられる。例えば企業誘致をするにしても、企業の近代化、省力化が進む中ではそう多くの雇用は望まれないし、仮に誘致できたとしても企業のヘッダの部分は地区外の人に任せられ、地元には単に労働力のみを要求されるので若者はやはり残ろうとしないのである。今の人々はただ収入を得るだけでは満足せず、個性の生かされる、自分の存在感が得られるという生



吉田村・企画振興課長
藤原さん

き方を望んでいるからだ。そこで地場産業の創設が考えられるのだが、それは地域が主体性を持ち、地域の資源と特性になじんだ独特のものでなければならぬし、高度な文化性を備えたものでなければならぬだろう。

このように、地域の活性化には産業・経済の面から地域の必要条件を整備していく政策と、文化の創造といった地域に付加価値を付けていく政策が必要である。

◆鉄の歴史村◆

このような観点から、吉田村は前述の『たたら製鉄』の歴史を生かした村おこしに取り組むことになった。その戦略としては、

① 情報の流れをつくる。

そのためには村が個性化する必要がある。質の高い個性化・独自の文化性を持つことで情報の発信

能力を備えなければならない。

② 人の流れをつくる。

そこに行ってみようという気を起こさせる。その条件整備として

◆菅谷たたら山内の復元整備
たたら製鉄の歴史を公開する。

◆鉄の歴史博物館
鉄の技術・知恵・生活などを、単に展示するだけでなく、ビデオなどでビジュアルに伝えていく。

◆オーブン・エアー・ミュージアム
鉄の科学・歴史博物館やサービス・コンベンション施設。

◆吉田グリーンシャワーの森
自然の中で人間性回復を図るための宿泊サービス施設。

◆やすらぎの里
生涯学習や文化・交流活動の拠点づくり。

③ 物の流れをつくる。

地域間交流の中から、人的需要建設的需要がでてくる。これらを満たし供給していくのが『株式会社吉田ふるさと村』である。

④ 文化交流

他の地域の文化や人との交流を進めることにより、一層豊かな生活文化を創造すると同時に、住民自身が納得し、継承し、語ること

のできる質の高い文化をめざす。

◆見えないものにこそ◆

藤原さんの言われる「村中を博物館にする」とは、単に『鉄』そのものを展示することではなく、鉄に関する技術や歴史等を通じて人々の生き方や生活文化を含めた地域の『風土』そのものを公開することである。

単に施設の充実や産業の振興にとどまらず、住民自身がその地域を語るインストラクターとして、生活の中で自然に、しかも自信にみちた「その地域なりの生き方」ができるのであれば、その姿こそ地域のかげがえのない特性であり、地方の存在する価値といえるのではないだろうか。

経済効率が最優先され、それが正しいと思われがちな社会にあつ

て「生き方」を見つめ、考えていく事が、価値観を見直し、「生き生きと、心豊かに生きる」ことの核心に通じるもののような気がする。まちづくりにかわる「人」の大切さを感じるとともに、「目に見えないものを見る心を育てたい」と考えさせられた二日間であった。

◀「ことばはがき」これぞまさしく“逆手流”

父さん生きているこの街は
山と川の谷の街
おまの大きな明日にすれば
小さすぎるか 淋すぎるか
だけだじだじと
きこえてくるか山のうた
きこえてくるか川のうた





元気印 レポート

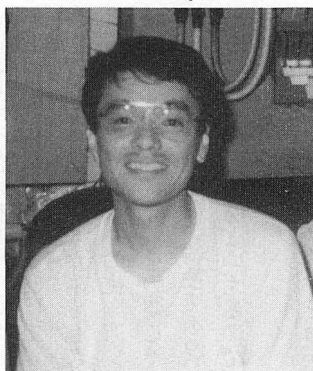
ひよっこりひょうたんユニコーン

◆ 川之江市

ユニコーン代表

宇高

斉



宇高 斉さん

始まりは、やはり正月元旦、午前四時。暗闇の中から次々と現われる、顔・顔・顔。うちの仲間の「初日出」誰一人やって来る事のない山奥での「初日出」。

☆☆☆

時間というものは、何かを作り出す為にあるようだ。それも、ある日突然今まで存在していなかったものを、「ある」ものとして、

作り出してしまおう。

十年來ただの「飲み仲間」だった我々も、その現象に遭遇する事となった。

我々の町には、「紙まつり」と

呼ばれる他とは少し違ったイベントがある。町をあげての紙を題材にした、お祭り騒ぎだ。

この祭りが、「音」を必要とした時、我々が「音屋」として、祭

りに参加。「光」を「話す事」を必要とした時、光を操る人が、人々に語りかける人が、いつのまにか我々の仲間になっていた。

☆☆☆

「祭り」には、一種独特の時間空間がある。人口を必ずしも最初からひきつけるのではなく、祭りと人との間に大きな一つの壁を設けて遮断している。そして、その

壁を簡単に越えてしまう人間と、なかなか越える事の出来ない人間がいる。越える事の出来ない人間にとってその祭りは、無色無死の存在でしかなく、遠い外国の伝統行事を見るようにしか感じる事ができない。

ところが、ひとたびその壁の内側に入ってしまうと、まず祭りの会場がモノクロームの世界から、総天然色の世界に変わってしまう。様々なおいが、身体の周囲に漂い始める。ありとあらゆる音が頭の中で踊り始める。

☆☆☆

遠い世界の「紙まつり」が自分達のすぐそばでポップコーンのようにはじけ飛んだ。大小様々な企

画が飛びかった。いろんなミニイベントができてきた。我々にとつて、見る事の対象でしかなかった祭りに、特別の色づけをして、自分達の処方せんを施した。「紙まつり」というイベントと我々の素敵な出会いだった。イベントが必要としたから、我々が生まれて、今、「ある」のだから。

☆☆☆

今日、どこを切っても金太郎飴イベントがあまりにも多い。企画する者は、安直にイベントのプロを求める。最初から、完成されたものを求める。今、これだけ情報化された時代に、イベントのプロと今からはじめるアマチュアとの間に、大きな差はあり得ない。自分達の祭りにかける情熱を持ち続けて欲しい。一年の間、ずっとその祭りに、夢を描いていて欲しい。そうすれば、時間はきっと作りだしてくれると思う。その祭りに必要な人達を。その祭りを次の世代に伝えてくれる人達を。

☆☆☆

「ユニコーン」、名前が最後に決まる。まるで、(ひょうたんからこま)のように。我々の呼び名。十名プラスα。十五才〜四〇才。全員、それぞれ専門分野あり。唯一のきまり。ハタチまでは、禁酒禁煙。

ユニコーンの仲間たち
陽気な仲間たち



夢企画 とつぽ21

◆保内町



兵頭孝健

二十一世紀もすぐそこに、自分のすぐ隣りにやって来ています。国内においても二十一世紀に向けての、いろいろな構想が打ち出されている今日この頃です。

我々とは二十一においても名前の通り二十一世紀に向けて何か、地方を盛り上げる事をと、毎日メンバーが集まり、頭をひねっています。

私達のふるさと保内町は、佐田岬半島のつけ根に位置し、昨年、待望の国道一九七号線頂上バイパス(メロディーライン)の開通により、あらためて町の活性化、観

光開発の必要性を感じています。とつぽ二十一のメンバーをはじめ、町内の青年達も自分達がより楽しく暮し、集える町づくりの為にどのようになればよいのかを真剣に考えています。そういう考えの中から「とつぽ二十一」というグループが今年一月に結成されました。

「とつぽ」とは、この半島部に昔から伝えられている方言で、「とつぽさく」とか「とつぽいやつ」とか言うような言葉が昔話に数多く出てきています。現代語で訳すならば、「とてつもない事」とか「大語壮語する」といったような事になるのでしょうか。といったような事で我々、「とつぽ二十一」は二十一世紀に向けて、何か、とつぽい事をしようではないかと、八人のメンバーが集まりました。

一人では何も出来なくても三人、六人、九人と集まれば何か出来るのではないかと一人一人がそういう思いで、「とっぽ二十一」に熱い情熱を燃やしています。

その中で最初に企画したのが、四国一周のクルージングでした。八千トンの船をチャーターし、一泊二日で四国を回ろうというのです。この企画にはメンバー九人が全員賛成で、「男のロマンだ」。「男の夢だ」と豪語し、客が集まらなければメンバー九人だけで、船に乗り、自分達のふるさと四国をもう一度外から見ようではないかと、企画を進めて来ました。ところが、メンバー九人の心配はよそに、予約開始以来一カ月目



にして、定員の七百名満員の状態になったのです。

これもひとえに、企画段階において、お会いした、いろいろな人達の力があってこそ、我々メンバー九人も貴重な体験をさせていたただいたと思っています。この紙面上をお借りして、厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。これからもメンバー全員この貴重な経験を生かし、全員協力して、みんなの夢を一つ一つ現実に行きたいと思っています。今までは夢とはただ見るものではなく、なかつたのではないのでしょうか。これから二十一世紀に向けて夢とは現実として達成して行くものだと九人全員が考えています。

さてこれからの「とっぽ二十一」の大きな目標としては、日本全体から自分達の町を考え町を活性化していく、その為には四国全体を考えて、行政・風土、あらゆるものをのりこえて、四国を一つと考え、町おこしではなく、国（四国）おこしをしなければと思っています。



夢企画とっぽ21

オフィス 愛媛県西宇和郡保内町
TEL 0894-36-3488

兵 頭 孝 健
YOSHITAKE HYODO

HOME 愛媛県西宇和郡保内町川之石
TEL 0894-36-0365

す。その為の起爆剤になれるように微力ながら頑張っていきたいと思っています。

二十一世紀には、必ず地方の時代、四国時代が来るのではないのでしょうか。本年度、瀬戸大橋が開通し、残り二ルートも、二十一世紀には、完成するものと思われまします。これから大きく変化する情勢の中で、もう一度原点に戻って……。

お知らせ

▼七月三十一日付で、センター職員の田村純子さんが退職しました。今後（松山ヤングネットワークの副団長として）活動します。



おめでとう!!

▼八月一日から新しくセンターの一員となりました久保田ひとみです。よろしく願います。



☆ ひみどす☆
☆ 頑張ります!! ☆





Let's パソコン通信

パソコン通信の特徴は？

えひめコンピュータコミュニケーションクラブ

事務局

Human Communication & Network



えひめコンピュータコミュニケーションクラブ

前回は、パソコン通信の機能と私達のネットワーク「TOWNタウン」についてざっとご紹介しましたが、だいたいのイメージはつかめましたか？

パソコン通信（ワープロ通信）という言葉からは、何かむずかしいような雰囲気がありますが、よく電話、FAXに次ぐ第三の通信という呼ばれ方をするとおり、最初のカタカナを取ってみると簡単に理解できます。

それでは、パソコン通信と他の通信を比較してみるとどんな特徴があるのでしょうか。次の表は、各通信手段を比較したものです。

どうですか、なにか耳慣れない言葉が飛び出して来ましたが、一見して今までと違った機能を持っているメディアだなとわかると思います。この中でも、特に面白い機能を説明してみます。

①文字（データ）の送受信

パソコンやワープロで作った文章がそのまま送れます。この場合FAXのように文字がかすれたりすることがなく、鮮明な文字をプ

特 徴	伝送可能な情報			情報処理機能				安全 性	双方 向性	出合い ランダム 性
	音	文字 データ	画像	同報 機能	蓄積 機能	検索 機能	加工 機能			
電 話	○	×	×	×	×	×	×	△	○	△
F A X	×	△	○	○	△	×	×	△	△	×
パソコン通信	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○

一度送った文章は、電子会議（掲示板）の場合は本人が消すまで、あるいは電子メールで特定のの人に送った場合は、受け取った人が消すまで、ホストコンピュータに蓄積されているので、何度でも繰り返し返して見ることが出来ます。

④蓄積機能

多数の人に文書で知らせたい場合、ホストコンピュータの電子掲示板に載せるとあとは利用者が自由に見ることが出来ます。

リンターで打ち出すことが出来ます。

②画像通信

市販のソフトを利用すればかなり鮮明なカラーの画像を送れます。（パソコン利用の場合のみ）

③同報機能

多数の人に文書で知らせたい場合、ホストコンピュータの電子掲示板に載せるとあとは利用者が自由に見ることが出来ます。

⑤二次加工機能

FAXでは、受け取った文書をなにかの資料にするときなどは、見づらい場合もう一度ワープロで打ち直す必要がありますが、パソコン通信では受け取った文書を、そのままワープロのフロッピーディスクに保存したり、取り出して修正したりすることが可能です。

⑥出合いのランダム性

電話やFAXで、例えば違う仕事や趣味の分野の人と知り合う可能性は、ほとんどありませんが、パソコン通信では、日常の自分の生活の範囲ではおそらく一生知り合うこともなかった人との出合いがあります。それも、年齢・性別・社会的地位などのヒューマンコミュニケーションの障害（？）となるタテ型社会のしがらみが取り払われています。

⑦時間の超越

電話で話をしたいとき、あるいは会議（討論）するとき、相手は同じ時間にその場所にいなければ不可能ですが、パソコン通信では、個人へのメッセージは電子メール

を送っておくことで、多数で会議（討論）する場合は、電子会議のコーナーにメッセージを送っておくことで、あとは相手が都合のよい時間にホストコンピュータに接続して、メッセージを読むことができます。お互いの空いた時間を利用した会議の開催などが可能です。

どうでしょう？いろいろな便利な機能があつてなにかに利用できそうな気がしませんか？私達のネットワーク「TOWNタウン」でも、なにか面白いことはできないものかといろいろな（話題あるいは議題別に分けた）コーナーを、ホストコンピュータの中につけています。例えば、海外に行った経験や外国の文化に触れた体験をもとにディスカッションする「異文化見聞録」、えひめの明日を考える「フォーラムえひめ21」、ちょっと気軽にしゃべりを楽しむ「喫茶TOWN」など盛りだくさんのメニューがそろっています。それから、まちづくりセンターさんが運営している、「まちづくり情報・資料室」には、県内のまちづくり関係の新聞記事トピックスが詰まっています。

というところで、今回も時間となりました。次回は、「TOWNタウン」ネットのコーナーの紹介を交えながら、パソコン（ワープロ）を使ってどうやって接続したらよいのかをご説明しましょう。

イベント雑感——城辺町での試み——



えひめ地域づくり研究会議

運営委員

鎌田 宏史



鎌田 宏史さん

早くも三回というよりやっと三度目。

小さくともプレーヤーと観客が一体となるようなジャズ祭、そんな夢がまた少しふくらみました。

ゲストの面々がまた素晴らしいのです。エモーショナルなピアノがいい山本剛。

渡辺貞夫の実弟でタイトなドラミングが魅力の渡辺文男。

昨年のジャズ・インで最高のノリを演じた峰厚介。実力者揃いの二グループ、そしてスーパーセッションへと。

旨いジャズに今年も酔ってみませんか、夏の終りに。

実行委員会一同心よりお待ちしております。

ちよつと感情過多ぎみだ、ジャズ・イン南レク、88、パンフレットのコピー。

夢が先行するから定型への道のりは遠く、なかなか前へ進まないこともある。今回もいろいろなことがあり、ささいなことで時間が過ぎてゆくこともあった。

夏の野外ジャズ祭にふさわしい見出しをつけてはどうだろうかと誰かが提案する。そこで一同頭をひねってみる、語呂としてはアーリーサマージャズインかミッドサマージャズインがいいのではと、でも八月二十八日ではどちらも感覚がすれる。誰かが夏の終りならラストサマージャズインがいいと言い、一同ラストサマージャズインに傾く、しかしよく考えてみればラストサマーは去年の夏である。



▲ジャズin南レク87

去年の夏今年のジャズをやるわけにはいかないギャグにもならない……結局エンディングサマージャズイン南レク、88に落ち着く。たったそれだけのことで数日が過ぎる。こんな調子だから会場設営、ポスター、チケットパンフレット作成等、遅々として進まない。回りの心ある方々をイライラさせる。才能のなさと言えはそれまでだが、とりあえず簡単に作ってしまうとか、波風たてずに最大公約数的に小さくまとめてしまうことにどこかひっかかりを感じてしまう。いつも徹頭徹尾自分達のオリジナルでいこうと言う訳ではないが、他所でうまくいつているからと同じ様にやろうとは思えない。誰もが考えるようになんとか



▲元旦朝市

自分達流に仕立ててみたいと思う。そして、そこが苦しい。

三年前野外ジャズコンサートをやるうと思いついた時、どのようにして自分達流にするか考えた。先例はいくつもある。外国でいえばモントルー、モンタレー、ニューポート等そこではすでに数十回のジャズ祭をこなしている。国内に限っても別府のキジマは十数回、マダラオ、広島の子チャスも私達より前からやっている、歴史、伝統ではかなわない。スケールでいっても数十万人を集めることはむづかしい。

たどりついたのが前掲した、自然、観客、プレーヤーが一体となる野外ジャズコンサートであり、石彫家田中坦三氏とのジョイントであった。大層な言い方をすればジャズとアートの出会いの場を創り出すこともある。

そうして二回が過ぎ三度目を迎えることとなったが定型を見つけたとはまだ言えない。

同じようなことは難産の末出来た八元旦朝市Vにもそれは見える。

一月一日午前0時を期して始まるイベント、商店街再生の一環。五年前商工会青年部が先進地視察で訪れた福山市で見たもの。これは使えろと感じたのが八元旦朝市V。ではこれをどのようにして城辺町の商店街流に仕立てるかいろいろ考えたがいい案がでない。悩んだ末町史を調べてみた。するとそこにあったのが城辺町に於る商業の発生である。町史によればそれは江戸末期とある。

それでコンセプトは出来た八城下町的元旦朝市Vである。あとは一気に進む、パブリシティーはかわら版風チラシ、メイン会場は商店街の中程にある商工会館前、都合のいいことに道をはさんで、江戸時代前まで城があった神社がある。会場はハリボテで作った城下町で江戸情緒を幻出する。

人集めの為、富くじを行い、両替所を設け

てお客様には百円を一両に換金してもらいそれを流通させる。青年部は全責手づくりのチョンマゲ姿で、ぜんざい、甘酒、うどん等を提供し、各商店では午前0時より一斉にシャッターをあげワゴンセールを行う。

福山市で見つけて城辺町流に位立てた八城下町的元旦朝市V。「これでカタチが出来た」とはまだまだいえない。それでもジャズ祭が町内で少しずつ知られてきたように、八元旦朝市Vも三回が過ぎ商店街の中で認知され始めた。継続は力なりである。そうして気が付いたことはイベント等が続けていく情熱なりエネルギーはオリジナリティーの有無と言ったことが大きな要素であるといったことである。オリジナルなものだけが内包するときめき、それを創出する楽しみ、自負心。差別化等とは本質的に違うもの、本物が質物がである。当然のことながらいきなり本物はつくれない、初期においては模倣やアレنجがあたりする。しかし「これが私達のカタチです」と言いきる時は本物を提出しなくてはいいかいいと思っている。

万博の太陽の塔や、プロコロハルムの「青い影」のように後にミロやバッハがあんなに鮮明に見えてはいけな、と。

課題別研究集会
REPORT

課題別研究集会「道」と「みち」を考えるパートⅡ

高速道路は地域に何をもたらすか

地域は…東からの提言

(財)愛媛県まちづくり総合センター

幸地慎一

去る三月五日の課題別研究集会「みち」では、我々にとって身近な空間である道について、いくつかの切り口が論じられた。

その中で、「いろいろな道について考えてみる機会があり、意義深いものであった。」という感想がある反面、「具体的なテーマと、ビジュアルな視点が欲しい。」との声があり、今回は、川之江・伊予三島を発信地として、「高速道路」というハード面から、よりリアルに「みち」を考えてみることにした。

集会は、前回の報告と、スライドによる川之江・伊予三島の紹介、建設者松山工務所の西田壽起所長の基調講演、(株)いよぎん地域経済研究センター福嶋康博さんからの「本四架橋と高速道路」のレポートまでをプロローグとして、後半は西田所長、福嶋さん、それに日本道路公団伊予三島工務所の江頭素樹所長の参加を得て、キャッチボール形式によるフロア討議を行った。

西田所長の基調講演の内容はおおむね次のとおりである。

『①高速道路の果たす使命は、昭和三十七年の全国総合開発計画から昭和六十二年の第四次全国総合開発計画に至る国土計画と密接

な関係にあった。

その中で、道路整備に要する財源の確保が受益者負担の原則の上に成り立っており、昭和二十九年のガソリン税導入に始まったが、特に高速道路建設に寄与してきたのが、有料道路制度であり、その全国プール制度が、採算性の薄い四国の高速道路整備の発展にも寄与してきた。

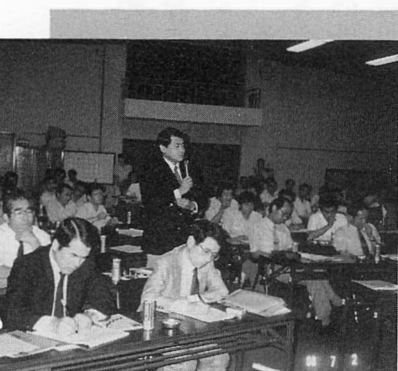
②日本経済の発展課程における産業構造の変化が、例えば人口の過密、過疎の問題に見るような社会環境の変化を生み出し、その結果、高速道路の果たす役割も変わってきている。

その中で、現在に至っては、IC産業に代表される高付加価値型先端産業の発達をみて、産業分野における立地条件も、臨海型から臨インターチェンジ型へと変化してきた。

③四国の道路整備の遅れは、地形、投資効率の悪さ(五十一億/キロメートル)、経済圏が中国・近畿地方中心であり、島内での交流の必要性も歴史的に薄かったことなどがあるが、十年後には三本の架橋とX型の高速道路網が整備され、このネットワークの有効利用を真剣に考えていかねばならない。

④これからの高速道路の有効利用の方法としては、日帰り圏の拡大による観光、レジャー圏の拡大と文化的落差の短縮、大都市と地方の交流、文化施設や医療圏の拡大による都市間機能の補完、定住効果、農産物・活魚など鮮度保持時間の短縮による出荷可能消費地の増加など様々な考えられる。

しかし、ここで必要なのは、高速道路はその地域に暮らす人々にとって豊かな生活を実現するための必要条件であるが、十分条件ではなく、使う側の考え方取り組み方である。』数字というものは常にリアルである。日本の高度成長を支えてきたのは経済成長率という数字であったし、高速道路においても財源や投資効率といった数字との戦いである。



基調講演を聴きながら感じたことは、その数字の恩恵に浴しながら、「使う側」の主張を我々自ら希薄にしまっているのではないかということである。

つづいて行われたフロア討議の状況を紹介する。

「質問①道後温泉に見られるような観光面での混乱状態に対する地域の対応策とは

(答)まず、観光地の混乱を論ずる前に、訪れる客に与える印象を大切にしたい。それにはまず駐車場の整備を民間と公共の接点を持ち、考えていくこと。具体的には、コントロールシステムによる駐車場の情報提供を研究している。

観光面では、人工的な施設は一過性になりがちなので、自然に親しめるような観光地をめざすこと。

質問②関西新空港のインパクトはどうなのか。また、十年後の交通体系における地域の課題は？

(答)関西新空港のインパクトは、四国からのアクセス方法によるのではないか。ねらいが近畿圏の地盤沈下への対応であるため、人の流れの点からも四国へのインパクトは薄い。逆に、例えば将来、松山国際空港が実現すれば今後は四国内での国際化に目を向けるべきだ。

十年後の課題は、高速道路における関西線、中国線との連結で現在三パーセントしか利用率のない大型車を産業界で使えるような地域基盤の整備が先決ではないか。



また、愛媛県全体の活性化のためには、今治、越智諸島の観光、南予の農水産業、宇摩、新居浜地域の製造業とそれぞれの特色を生かした地域整備が必要。

質問③川之江ジャンクションの功罪及びその利用方法はどうか。

(答)ジャンクションは高速道路をつなぐものであるから、その意義があるとすれば方向性である。また、ローカルな方向性についてはインターチェンジとの関連を合わせてより多方向での利用効率を考えていく必要がある。四国の四つの県都を一時間以内で結ぶことが可能になったとすればこれらを結ぶ八都市や川之江の近隣地域との独自性を生かした活用の道を開いていくこと。

質問④いわゆる「造る側」と「使う側」の論理の違い、価値感の調整についてどう考えているか。

(答)使う側には善通寺―土居間のような採算性の薄い路線への期待があるし、一方では全国プール制に対する批判もある。造る側としては、採算性は無視できないので施設を永

久のものとみなして、世代間の便益の公平を理由に無期限に料金を取らざるをえないことになる。

使う側の意見の調整は国民的レベルで論じていく必要があるが、造る側との調整として全国的なモニター制度を設置しているし、ハイウェー懇談会では学識経験者や異業種との意見交換も行っている。」

今回の集会では、テーマをハード面でも特に高速道路に絞ったことで、全体として使う側からの議論が弱かったような印象を受けた。これは、高速道路にしても本四架橋にしてもいわゆる身近な空間としての道を認識するには巨大で何か近寄りたいたい感があつたためだろうか。

しかし、大切なことは、そこに高速道路があるから、巨大投資があるから何とかしたいという受け身の議論になつてはならないことだ。この点に関しては造る側も使う側も一地域の住民として同じ思いだろう。

「高速交通体系」という時代の到来を目前にして、これまで高度経済成長を通して経験した「繁栄の中の貧困」を決して繰り返してはならないと思う。それが何よりも心の豊かさであるとするれば、我々にとって大切なことはその願いをひとつひとつ叶えて行くことである。

この集会から発信できるものとすれば、その地域に住んでいる人々の願いがより鮮明により強力に高速交通体系に反映していくことの大切さではないだろうか。

「提 詩」

久万高原塾 渡 辺 浩 二

プログラムは進み、ピエロは踊る
トータルにビューティフルにと希いつつ
まつりの歯車は、今日もキャタピラーの一片だ
何が僕等の生産性？
いや「デッサンだ、デッサンだ」と言いきかす



問題は表現である。
その『差』は才と経験の振幅である
ボクはヒラヒラ舞っているけれど……。
おまつり愛は郷土愛のうら返しであって
「愛とは出向くこと」のすくなくとも『実践』ではある

包摂されたものの中に包摂された部分があって全体の一部を成す
成るものは為される、体系として真理を抱く
樹芸の郷づくり……僕等の……ライフデッサン
なれば・されど・けだし我等が日々はアメーバー
小さく唄って、大きなまぼろしのウドンゲの華



デッサンだ、デッサンだ生きてる限り

まちづくり活動の情報 紙としての

この「舞・たうん」を隔月で発行しております。

皆様からのレター通信紙として活用下されば幸いです。

内容についてのご意見や、活動内容についての記事など気楽にどしどしお寄せ下さい。

次回「舞・たうん」特集は
「花みち」です。

「舞・たうん」編集係

二人のGAL（丹下・久保田）まで。

〒七九〇 松山市道後一万一の二

（愛媛県まちづくり

総合センター

TEL〇八九九（二五）五五五七

FAX （二五）六六八〇